

玉野高で外務省オンライン授業

玉野高で6月30日、在コートジボワール日本国大使館の滝沢仁1等書記官(41)によるオンライン授業が行われた。「グローバル社会で求められる精神」と題し、全校生徒約430人に、「熱く 温かく いきいきと」という同高のモットーこそ世界で活躍する人材が持つべき心得だと説いた。(矢吹喜一郎)

熱く 温かく いきいきと

世界で活躍する心得



オンライン授業で滝沢1等書記官の話に耳を傾ける玉野高の生徒

西アフリカにあるコートジボワール。滝沢さんは、国名が「象牙海岸」を意味し、国章にも象があしらわれていることを説明。他にも、カカオの生産量が世界一であることや、かつてフランスの植民地だったことから公用語がフランス語であることも紹介した。

外交官に求められる資質として、任務を遂行するための情熱▽国や人を守る思いやりの心▽未知なる未来への積極的な挑戦の3点を挙げ、言い換えると同高のモットーになるとした。

昨年、新型コロナウイルス禍で困難な状況でも玉高祭を実施したことや、講座

在コートジボワール「誇り胸に生活を」 滝沢1等書記官

を前に図書室に外務省やコートジボワールを紹介するコーナーを設置したことにも触れ、「一つ一つの行動が具体的な形となって成果に結びつく。これからも玉野高の生徒であることに誇りを持って充実した高校生生活を送って」とエールを送った。

希望者を対象にした座談会もあり、国際系の大学への進学を念頭に「第2外国語は何語を学ぶべきか」と質問した3年の難波征也さん(18)は「自分が関心のある言語を学ぶべきだとアドバイスをいただいた。今は英語力を磨き、大学では多くの外国語に挑戦してみたい」と話した。

外務省が高校生に外交や国際問題への理解や関心を深めてもらおうと1995年度から毎年、全国公募で実施する高校講座の一環。6月8日には光南高でも行われた。

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。